

令和 2 年 度

(自 令和 2 年 4 月 1 日～至 令和 3 年 3 月 31 日)

事 業 報 告 書

公益財団法人 京都国際学生の家

事業報告書

当法人は、「京都に学ぶ各国学生の健全で有意義な共同生活を助成するとともに、その知性、徳性及び靈性の向上をはかり、併せて国際親善と相互理解の増進とに寄与し、もって不特定多数の公益に寄与することを目的とする。」（定款第3条）ことを目的としている。

世界各国から国際学術都市京都に來り学ぶ外国人学生と日本人学生に、学寮という生活の場を提供し、月間・年間を通じた行事や毎日の地道な活動を通じて、ハウスの創始者であるスイス人牧師、故ウエルナー・コーラ（Werner Kohler）博士の提唱した「共同の生」を体験させることによって、この国際理解と親善の増進を計る。この「共同の生」とは、我々の現存在の表面的な調和的共存を意味しているのではなく、異なる国家あるいは民族の間に厳然として存在する人種、宗教、慣習、文化さらにはイデオロギーといったものの相違を、寮生相互に対決（confront）させ、これらの相違を互いに認め合った上で、一個の人格としての「出会い（Begegnung）」を体験させることである。この「出会い」を通じて、相互の相違を認識し、相互に承認し合うという、きわめて厳しい努力と体験を通じて得られる寛容（Tolerance）が、人類普遍の願望である人類共存の道を達成する有力な手段であると信じ、この「出会いの家（別称）」という屋根の下で営まれる「共同の生」の実現と維持を続けている。開館以来54年間に、寮生用34室を利用した寮生は世界の82ヶ国から1035名、併設されている研究員用11室を利用した学者、研究者は96ヶ国から3088名の多きにのぼる。これらの寮生、研究者達は、京都における学際的研さんの成果と共に、この「家」で体験した人間同士の愛と連帯意識をもって世界中で活躍している。

半世紀が過ぎ、建物は老朽化し、耐震補強や電気・水道などを改修する「本館の耐震改修」と「研究者棟の建て替え」に直面し、募金委員会を2017年6月に立ち上げ、本格的な寄付活動を行ってきた。「国際平和」の実現を祈念して、今後も世界の若者に本学寮を提供するため、京都商工会議所の賛同を得て、京都の企業を中心に募金活動を実施した。

当初の募金目標の達成が進まない中、建物の耐震強度の補強を遅らせる訳にはいかず、工事内容を再検討し、計画を2期に分割して推進することにした。

1) 本館棟：第1期改修工事として、耐震、最低限のインフラ（給排水、ガス、電気）設備工事は実施された。しかし、本館の研究者室やHP室及び地下室の再編成工事は実行できず、当初予定した一期工事の積み残しが多く生じていることもあり、今後どうするか再検討する必要がある。

2) 研究者棟：第2期工事として新研究棟建設が計画されていたが、コロナのパンデミックにより、取り壊さず残された旧研究者棟（西館）の改修工事も視野にいれ、新研究棟についての計画も再検討する必要がある。

I. 事業の概況

1) 学生及び研究者の国際交流の場としての宿泊施設の設置及び運営

(1) 京都「国際学生の家」

	学生用	研究者用	備 考
収容定員	34 室	11 室	研究者用にはツインルーム 3 室あり

(2) 利用状況

○学生の部（令和 2 年 4 月より令和 3 年 3 月）

国 別	人員	研 究 機 関 別	人員
日本	9	京都大学	15
中国	4	京都産業大学	2
台湾	2	立命館大学	2
インドネシア	1	京都女子大学	2
韓国	1	龍谷大学	1
ベトナム	1		
オランダ	1		
ペルー	1		
ウガンダ	1		
アメリカ	1		
合 計	22	合 計	22

○研究者・学者の部

台湾	1
合 計	1

(3) 学生及び研究者の生活・勉学の援助及びカウンセリング

原則として、一家族が、ハウスペアレント（学寮管理者）として、学寮内に居住して、寮生の生活のアドバイス、勉学援助やカウンセリングなどに当たっている。そのハウスペアレントを補助する機関として、学生の入寮時の面接、カウンセリングなどを行う学寮運営委員会（ハウスコミッティー）が組織され、活動している。

(4) 行事・活動：

下記のような月間・年間を通じた行事や日常活動を通じて、異なる国家あるいは民族の間に厳然として存在する人種、宗教、慣習、文化さらにはイデオロギーといったものの相違を、入寮学生・研究者相互に対決させ、これらの相違を互いに認め合った上で、一個の人格として出会う「共同の生」を体験させている。この様な相互の相違を認識し、相互に承認し合うという、きわめて厳しい努力と体験を通じて得られる寛容が、人類普遍の願望である人類共存の道を達成する有力な手段であり、このことが同じ屋根の下で営まれる「共同の生」を通じて実現できると期待している。

各寮生には、ハウスの維持のために必要な仕事（当番：例として、ハウスキーパー当番、スポーツ当番、コモンミール当番など）を分担させている。また、一緒に食事や音楽、スポーツ等を楽しめるような共有設備（共有台所、ピアノ、広い応接室、卓球台、ビリヤード、バレーボールコート等）を備え、自然に「共同の生」に参加できるような仕組みとしている。

① 月間定例行事

○ほぼ月に2回 19：30～21：00 チーム・ミーティング

半期ごとに学生から選出されたチェアパーソン、バイスチェアパーソン、書記、会計とハウスペアレントがチームという自治組織を作り、全員参加のハウス・ミーティングの前に、ハウスで起こる諸問題やセミナー等を含めた種々の行事の打ち合わせを行っている。

○ほぼ月に2回 18：30～20：30 コモン・ミール（夕食会）

「コモンミール」は、当番制で作る寮生の自国料理を皆で楽しむ夕食会のことで、寮生達が友好を深め、異なった国々の文化を理解する第一歩であり、「共同の生」の入り口であると考えている。皆と一緒に「会食をする」ということは、多様な地域の文化・慣習・宗教などを一番簡単に、しかも深く感じることのできる行為だと私たちは考えて行っている。

※但し 2020 年度は新型コロナウイルスの影響により一部オンラインにて開催。

○ほぼ月に2回 20:30~22:00 ハウス・ミーティング

コモンミール後に、ハウスペアレントも含めて、寮生全員参加の一番重要な会議である。寮生のチェアパーソンを議長に、ハウスで起こる諸問題を取り上げ、全員で議論を闘わせ、解決への努力をしながら「共同の生」を体感している。

※但し2020年度は新型コロナウイルスの影響により一部オンラインにて開催。

② 年間定例行事

○新入生歓迎会：令和2年5月23日（土）、令和2年10月9日（金）

前期と後期で年に2回、寮の理事やハウス委員会の委員が参加。理事長や理事の挨拶後、国際寮の生活に早く馴染めるよう、寮生の委員によるハウスのガイダンス、及び新入生の自己紹介等が行なわれた。

※前期の新入生歓迎会は新型コロナウイルスの影響によりオンラインにて開催された。

○国際食べ物祭り：令和3年1月16日（土）

「食を通じた国際親善活動」と位置づけられている行事で、各国(9~10カ国)留学生のお国自慢の料理を、ダンスパーティ等でご迷惑をお掛けしているHdB周辺の住民の皆さんや、寄附を下さった方々や友人を招待して、食を通じて、寮の雰囲気や世界を実感してもらう定例行事。

しかし本年は新型コロナウイルスの影響により直前になり中止となったため、中止を知らずに来られる方々のためにお弁当を用意し対応した。

○感謝祭：新型コロナウイルスの影響もあり、中止となった。

○セミナー：

和菓子体験教室：令和2年11月28日（土）

和菓子教室を開催し、日本の食文化を研修した。

公開講座：令和2年12月4日（金）

北村敏泰氏を講師に迎え「苦縁——東日本大震災・苦の現場から いのちと宗教を考える」をテーマに講演を行った。

市民公開講座：令和2年12月12日（土）

・岩田忠久教授（東京大学）「高性能な生分解性バイオマスプラスチックの

開発—プラスチックと人類の共存・共栄を目指して—

- ・ケシャブ・ラル・マハラジャン教授（広島大学）「京都国際学生の家での生活、およびその後：途上国の生活向上、食糧確保、留学生の教育・研究指導について
- ・嘉田良平教授（四条畷学園大学）「国際社会で役立った“京都国際学生の家”の経験」
- ・寮生3人（外国人留学生と日本人学生）「京都国際学生の家の特徴—国際理解・異文化理解への効果—」

○スポーツ大会：令和2年9月27日（土）、10月24日（土）

本年は二度、スポーツを通じて、寮生達の交流と親睦を兼ねたスポーツ大会を行った。

○トリップ：令和2年11月21日（土）、22日（日）

兵庫県の古民家に宿泊し、竹田城観光などを行い日本の歴史を研修した。

○クリスマス・パーティ：令和2年12月19日（土）

日本的な意味でのクリスマスの名を借りた寮生達の「忘年会」である。本年は新型コロナウイルスの影響もあり招待客は招かず、感染対策を講じた上で自慢の料理やケーキを作り、一緒に食事をし、余興など、一年を振り返りながら、親睦を図る楽しい行事であった。

○クリーニング・デイ：令和2年7月19日（日）、令和3年1月17日（日）

年に2度、寮生全員で、学寮の共有スペースである卓球室、ビリヤード室、応接室、運動場、洗濯室などを清掃する。自分たちの生活空間を自分たちで、清掃し、整理整頓にすることで、生活空間を快適にする目的で行った。

③ 図書の刊行頒布

会誌等の刊行：「2020年度 YEAR BOOK」の刊行。

学寮の公式の出版物である。一年間の学生達の活動報告や、元寮生の経験談、寮としての公式の活動を記録して、関係者に配布して、学寮の活動を理解して頂く出版物である。今年は初代ハウスマザー稲垣和子さんが逝去されたことで特集を組んだ。また、新型コロナウイルスの影響で寮生が少なかったことで学生文集も兼ねて発行することとなった。

2) 不動産等の管理と運営

行事・活動：

寮の空きスペースを利用して、駐車場を設置し、後援会会員に貸与を行っている。区画数 29 台あり、空きが出た場合には、駐車場に掲示するとともに、近隣住民の後援会会員に連絡し、募集を行っている。

II. 庶務の概要

1) 役員

理事長	内海博司	京都大学名誉教授
常務理事	吉川晃史	関西学院大学准教授、公認会計士
理事	村上 彩	(株) グローバルエージェンツ
	上村多恵子	京南倉庫(株) 代表取締役社長
	村田翼夫	筑波大学名誉教授
	嘉田良平	四条畷学園大学教授
	吉村一良	京都大学教授
	RUSTERHOLZ Andreas	関西学院大学文学部教授
	深海八郎	眺八海倶楽部総支配人
	永井千秋	元神戸大学医工連携コース 客員教授

監事	浅田拓史	大阪経済大学准教授、公認会計士
	折田康広	弁護士
	秋津元輝	京都大学教授

学寮運営委員長	山田祐仁	学校法人辻料理学館
学寮運営委員	坂口貴司	三菱電機(株)
	鈴木あるの	京都大学講師
	タナゴナン ジーン	近畿大学講師
	デイヴィス ピーター	テレコグニックス CEO
	戸口田 淳也	京都大学教授
	松橋 眞生	元ハウス・ファーザー
	長谷川 真人	京都大学教授
	北島 薫	元ハウス・マザー
	崔 英樹	京都市青少年科学センター職員

2) 評議員

岩崎隆二	和晃技研(株)代表取締役社長
中島理一郎	元同志社大学教授
吉田和男	京都大学名誉教授
西尾英之助	京都日独協会会長
山田祐仁	学校法人辻料理学館

平野克己 日本塗装機械工業会専務理事
 蔦田正人 蔦田内外国特許事務所代表
 諏訪共香 日本語教師

3) 顧問

所久雄 社会福祉法人
 京都国際社会福祉協力会理事長

神田啓治 京都大学名誉教授
 シュペネマン クラウス 同志社大学名誉教授
 (2021年2月3日逝去)

平松幸三 京都大学名誉教授
 森棟公夫 梶山女学園大学教授
 柴田光蔵 京都大学名誉教授

4) 職員

氏名	担当事務	備考
水谷内典子	法人事務及び経理事務等	
清水良子	受付業務などの庶務事務	
吉竹慶一	学寮の維持管理(学寮外周り)	

5) 後援会員 (詳細についてはイヤーズブックに記載。)

法人会員 10
 個人会員 50
 OB会員 980

6) 理事会

回・年月日	議題	結果
第22回 令和2.5.23	1. 第21回理事会議事録の承認の件 2. 平成31年度事業報告の件 3. 平成31年度決算報告の件 4. 第14回評議員会開催の件	承認 承認 承認 承認
第23回 令和2.6.6	1. 第22回理事会議事録の承認の件 2. HdBの募金活動の件、募金委員会改組の件 3. HdBの今後の活動の件	承認 承認 承認
第24回	1. 第23回理事会議事録の承認の件	承認

令和 2.9.13	2. 募金活動の終了に関して	承認
	3. 募金活動を通して感じた HdB の課題の対応組織について	承認
	4. この新型コロナウイルス禍において、学生数の減少に伴う緊急事態について	承認
	5. 本年度のイヤーズブックの発行について	承認
	第 25 回	1. 第 24 回理事会議事録の承認の件
令和 3.3.6	2. 令和 3 年度事業計画について	承認
	3. 令和 3 年度予算について	承認
	4. HdB と（公財）基督教イーストアジアミッションとの合併について	承認
	5. 第 15 回評議員会開催の件	承認

7) 行政官庁の指示に関する事項

該当なし

8) 契約に関する事項

該当なし

9) 寄附金等に関する事項

(1) 寄附金・寄附物品（使途指定なし）

寄附者（敬称略・順不同）：財団の維持及び活動経費として受け入れ、目的に応じて支出した。

CHANG CHEW CHIN、Palungkun, Vanessa Alma、Randolph Ruiz Rodriguez、Trin Hai、朝倉寛之、新居哲、石原ゆき子、伊藤康宏、井上勝六、井上富子、岩崎隆二、岩田忠久、岩沼省吾、上田高廣、上田学、上西勝也、内海博司、大鹿康廣、大畑浩志、岡崎白川ライオンズクラブ、岡田徳子、岡本徳子、置田和永、小野公二、折田泰宏、加藤哲雄、金盛彦、鎌野幸子、鴨田昭代、川野家稔、河野大輔、河南晴子、韓 思平、カンタトーレ ドメンコ、京都ロータリークラブ、協和化学工業株式会社、金ナヨン、窪田弘、琴浦良彦、小西淳二、近藤敬司、坂野泰治、澤田正樹、サンこども園、杉山喬一、鈴木喜六、鈴木武夫、鈴木松郎、諏訪共香、高田徳子、竹田洋子、多田譲治、田中徳壽、谷幸治、田野かおり、辻正樹、辻川仁智、辻村富子、土居貞往、十河智江子、富永芳徳、友松浩、永井千秋、中上和子、中島理一郎、仲谷正博、中谷和夫、中山貴美子、

成田康昭、西尾英之助、西本太観、丹羽太貫、平田康夫、平野克己、深海八郎、ファステック株式会社、福田金属箔粉工業株式会社、福本和久、藤原邦夫、古川彰、古川千佳、細川治、眞木恵子、松田敬一、三浦一郎、水野明代、美濃導彦、宗岡克英、村崎直美、村田翼夫、森田敏照、森棟公夫、安田佳子、柳田由紀子、藪下義文、藪田定男、山岸秀夫、山下進一、山田有信、山田祐仁、山本慶一、山本夏子、山本雅英、有限会社エムティーエヌ 青木みどり、義家敏正、吉川昭一、(有)ハイナン 土屋俊宏

合計 6,033,000 円

(2) 寄附金（研究者棟新築と本館耐震補強・改修工事費に用途指定）

寄附者（敬称略・順不同）
稲葉カヨ、岡田徳子、清水安代、辻正樹、橋本求、古田和子、山口忠彦

合計 85,000 円

(3) 補助金・援助金

補助金の目的	補助者	補助金額	備考
留学生地域交流事業	日本学生支援機構	219,691 円	国際理解を促進する公開市民講座およびセミナーの実施事業
留学生地域交流事業	日本学生支援機構	177,817 円	食文化を中心に据えた国際交流と混住型学生寮の意義

10) 基本金に関する事項

本年度末現在の基本金は下記のとおり。 (円)

区分	項目	金額
基本金	ライオンズクラブ (27LC) 京都、西、南、洛南、洛陽、鴨川、桂、北桑田、洛東、堀川、東、華頂、洛中、みやこ、岡崎、平安、葵、橘、紫明、北、洛北、桃山、山城、乙訓、宇治、城陽、綴喜	13,400,000